

Lad-Saf 用

ケーブルスリーブ

取扱説明書



この取扱説明書は、Lad-Saf ケーブルスリーブの取付けと使用について述べています。ケーブルスリーブの取付け、使用前に読んで下さい。

警告：この取扱説明書は、ケーブルスリーブを使用する全てのユーザーと墜落発生時の救助者に配布して下さい。ケーブルスリーブの取付け・使用に携わる人は、取扱説明書を必ず読み、適切な使用・検査・メンテナンスを実施するために、説明に従って下さい。また、ケーブルスリーブと併用する安全具についても、メーカーの取扱説明書に従って下さい。ケーブルスリーブは、Lad-Saf 墜落防止システムを構成する一つの安全具です。交換・代用・不適切な使用や、取扱説明書に反する行為は、重大な事故に繋がります。

重要：当ケーブルの取付け、使用、メンテナンスや用途についての疑問は、代理店にお問い合わせ下さい。

重要：当ケーブルを使用する前に、ラベルにある製品情報を検査&メンテナンス記録シートに記入して下さい。

1.0 用途

1.1 目的：

当ケーブルスリーブは、固定梯子を昇降中の墜落を防止するものです。ものの運搬に使用するためのものではありません。

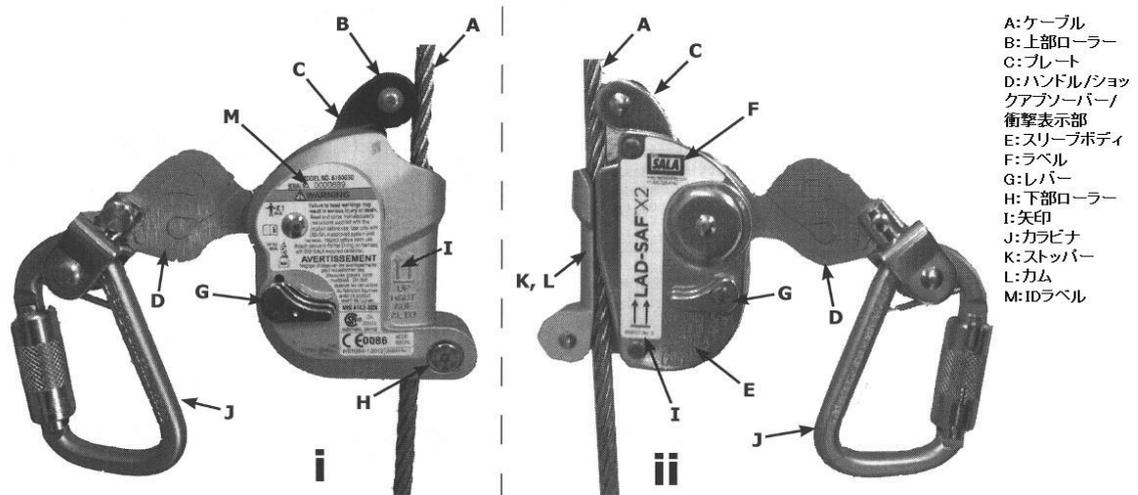
ノート：取付けに関わる人とユーザーは、梯子が国内の規格を満たしているか確認して下さい。

1.2 制限：

当スリーブは、DBI-SALA の認定を受けた梯子用の墜落防止システムと使用して下さい。8mm もしくは 9.5mm のソリッドコアケーブルを使用して下さい。垂直から最大で 15 度傾いた垂直梯子用の墜落防止システムに使用出来ます。垂直から 15 度を超える傾きのある墜落防止システムには使用できません。当スリーブは-30℃の環境まで使用可能です。当スリーブは、Capital Safety 社の認定を受けたフルハーネスやボディベルトとカラビナを接続して使用して下さい。カラビナ以外の接続具を使用しないで下さい。

ノート：ANSI A14.3 と OSHA 1926.1053 ではユーザーとカラビナとの接続点の距離が 23 cm 以下であることを指定しています。

当ケーブルスリーブは、Lad-Saf システムの使用者が各自ひとつずつ身に付けることを前提に設計されています。

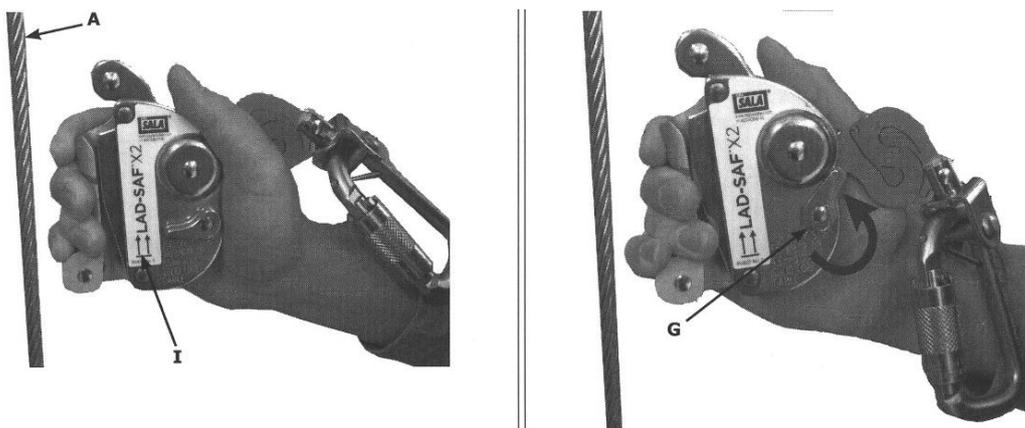


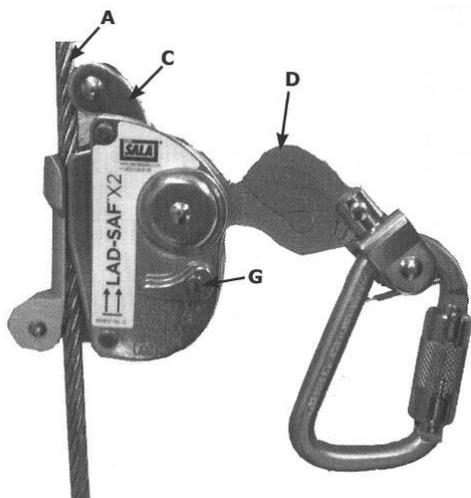
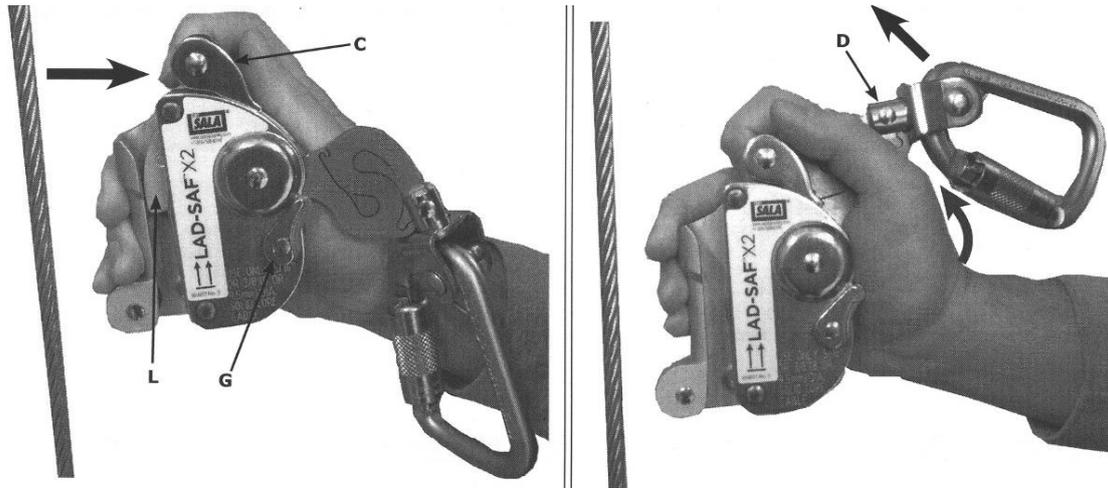
2.0 システムの要求事項

2.1 互換性

当ケーブルは、DBI-SALA の認定を受けたサブシステムや安全具との使用を意図しています。認定を受けていないサブシステムや安全具との併用は、互換性の点で墜落防止システム全体の安全性や信頼性に悪影響を及ぼすおそれがあります。互換性についての疑問は、代理店にお問い合わせ下さい。

3.0 スリーブの接続手順





- 1、矢印 (I) が上向きになるようにスリーブを持ちます。
- 2、レバー (G) を矢印の方向に回転させロックを解除します。レバーはスリーブの両側にあります。
- 3、プレート (C) を矢印の方向に引きます。
- 4、ハンドル (D) を上 (矢印方向) に持ち上げます。ハンドルを上を持ち上げるとカム (L) が開きます。
- 5、カムが開いたのを確認し、ケーブル (A) に取付け、ハンドル、プレート、レバーから手を放し、レバーが元の位置に戻り、ロックしたことを確認します。

4.0 トレーニング

4.1 トレーニング

当ケーブルのユーザーや購入者は、取扱説明書・運用上の注意・使用制限・不適当な使用

が招く深刻な事故等について熟知している責任があります。ユーザーと購入者は、正しい手入れの方法と使用方法についてのトレーニングを行って下さい。

重要：墜落の危険があるトレーニングは行わないで下さい。トレーニングは定期的に行ってください。

Step 1:フルハーネスを着用しケーブルと接続して下さい。腰ベルトは使用しないで下さい。

Step 2: 梯子を約 1m のぼります。両手両足を梯子にかけたまま、膝を曲げて勢いよく椅子に座るような動きをし、墜落シミュレーションを行います。スリーブの墜落防止機構が働きます。

Step 3: Step 2 を何度か繰り返し、スリーブの動作に慣れます。スリーブがロックされたら、梯子をのぼり、ロックを解除します。

Step 4: 梯子をおり、スリーブを取り外します。

5.0 検査

5.1 頻度

・使用する前に必ず下記の検査項目に従って検査します。

・定期検査：少なくとも年に一度定期検査を行います。この検査は、責任能力のある人物が行います。定期検査の頻度は、使用環境によります。検査の記録は、メンテナンスログに記録して下さい。

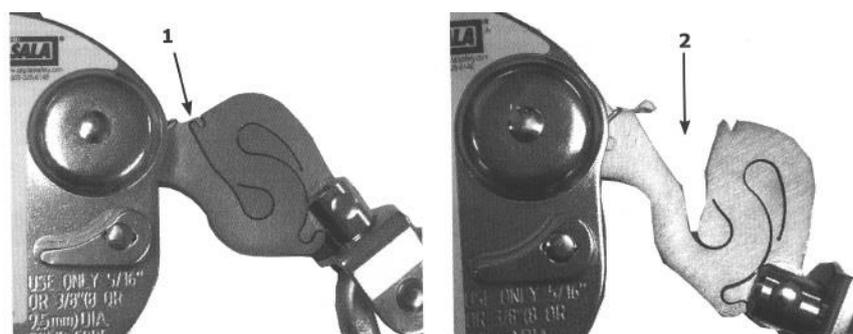
・墜落発生後は、使用をすぐに中止し、ユーザーを含まない、責任能力のある人物が検査を実施して下さい。検査の記録は、メンテナンスログに記録して下さい。

※責任能力のある人とは：個人用保護具としての墜落防止器具について、国および地方の関連する法規と安全規格(例えば EN 規格)に関する知識を訓練と経験により十分に得ており、高所墜落防止器具とシステムの状態や使用方法について正しく判断できる者。

5.2 検査手順 (図 1 参照のこと)

① ハンドル/アブソーバー (D) に曲がり、ひび割れ、変形がないか確認します。締め具が全て外れていないことを確認します。ハンドルとカムの動きがスムーズであることを確認します。ばねが効いていて、下方へ引くことに問題がないことを確認します。

下図の 1 は正常時、2 は墜落防止後の変形を示しています。



- ② レバー (G) がスムーズに動くか確認します。手を離すと、ロックポジションに戻ることを確認します。
- ③ カム (L) に摩耗がないか確認します。カムにダメージがないことを確認します。また、ハンドルを上を持ち上げた状態で上下にスリーブを揺らし、カムが上下にスムーズに動くことを確認します。同様に、スリーブを横に寝かせた状態でハンドルを上を持ち上げ左右に揺らし、カムが左右にスムーズに動くことを確認します。
- ④ プレート (C) を後ろに引きます。レバーを回していない状態で、プレートを最後まで引けてしまう（ケーブルを通せる状態になってしまう）場合は、スリーブの使用を中止します。

5.3 検査結果

検査の結果、スリーブに不備が見つかった場合、使用をやめ、廃棄するか代理店にお問い合わせください。検査記録をメンテナンスログに記録します。

6.0 メンテナンス

せっけんを含んだ温水で洗い流して綺麗にすることが可能です。

ケーブルスリーブは、涼しく、乾燥し、直射日光のあたらない、清潔な環境下で保管して下さい。薬品蒸気のあるところでは保管しないで下さい。保管後の検査は綿密に行ってください。

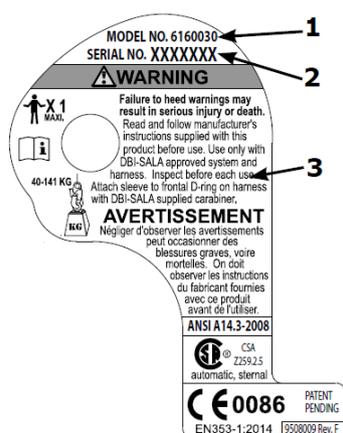
当取扱説明書に記述されている以上のメンテナンスが必要な場合、代理店にお問い合わせください。

7.0 ラベル

7.1

ラベルがはがれていないこと、読めることを確認します。

- ① パートナンバー
- ② シリアルナンバー
- ③ 警告：当製品の使用前に、取扱説明書を読み、必ずその指示に従って下さい。適合性のないケーブルを使用しないで下さい。DBI-SALA の認定を受けたシステムとハーネスを使用して下さい。梯子に設置されたケーブルとハーネスの接続点との距離は最大 23 cm です。毎回の使用前に検査を行って下さい。ケーブルスリーブとハーネスの接続は、互換性のある製品を使用して下さい。当警告を順守しない場合、重大な事故に繋がる可能性があります。



- ① 梯子に設置されたケーブルとハーネスの接続点との距離は、最大 23 cm です。
- ② ランヤードは使用しないで下さい。

